

# Zero Carbon Report

特集

## ますます注目される カーボン・クレジット



TOPICS

「ゼロカーボン探究賞」を表彰しました！

@探究チャレンジ・北海道

3月11日（土）に、北海道大学学術交流会館で開催され、地区予選を勝ち抜いた25校が参加し、「北海道旭川農業高等学校」が見事ゼロカーボン探究賞を受賞しました。




▲「ゼロカーボン探究賞」を受賞した北海道旭川農業高等学校の生徒と鈴木知事の記念撮影

北海道教育委員会では、高等学校及び特別支援学校高等学校部の生徒が取り組んだ探究活動の成果を発表・交流する機会を設定し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するとともに、探究活動の成果を新たな探究に結びつけ、生涯にわたって能動的に学び続ける資質・能力を育成するべく、「探究チャレンジ・北海道」を実施しています。

本年度は、これまでの表彰に加え、令和5年4月に札幌市で開催される「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」を契機として「ゼロカーボン探究賞」が創設され、ゼロカーボンの取組に繋がる発表を表彰することとなりました。

本年度の成果発表会が、令和5年

「ゼロカーボン探究賞」を受賞した  
北海道旭川農業高等学校の  
取組内容概要

取組 タイトル	上川アップデート・プロジェクト ～木製品開発で新たな魅力を！！～
概要	学校の演習林が所在する上川町に、木製品開発を通して貢献したいと考え、家具職人や短大教員の方々から助言をいただきながら、町産材シラカンバを活用した酒枡を製造した。
背景と 目的	上川町は自然豊かである一方で過疎化が進み、町内の林産業は著しく衰退している。普段から実習でお世話になっている町へ恩返ししたいと考え、木製品開発を通して上川町に新たな魅力を追加したいという思いから活動がスタートした。上川町の実態を踏まえ、観光地で活用できる木製品に的を絞り、「オリジナル酒枡」を製造した。
プロジェクト の実践	<p>【材の選定】：加工が容易で、付加価値もつけやすいことからシラカンバを選定。</p> <p>【デザイン】：ユーザビリティを考慮しつつ、既存デザインにとらわれない6角形を採用。</p> <p>【製造】：底面は大雪山の「雪」の文字から、6角形の雪の結晶をレーザー加工を採用。</p> <p>また、側面にはシラカンバ樹皮を使用。</p>  <p>オリジナル酒枡 試作品の完成！！</p> <p>▶実際に作成した酒枡</p>



道では、北海道内の温室効果ガス排出量を2030年度までに48%削減、2050年までに実質ゼロにする「ゼロカーボン北海道」の実現を目指しています。この達成において重要な取り組みである「カーボン・クレジット」に関する制度を解説するとともに、道や市町村企業へのクレジット創出事例を紹介します。

今、地球温暖化の進行を防ぐために、多くの企業や団体が、その活動において生じるCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量削減に努めています。しかし、CO<sub>2</sub>の排出を完全に無くすことは非常に困難です。このようにどうしても削減が難しいCO<sub>2</sub>について「他の場所での排出削減や吸収活動等で実現したCO<sub>2</sub>排出削減量」で埋め合わせようという取り組みが「カーボン・オフセット」です。

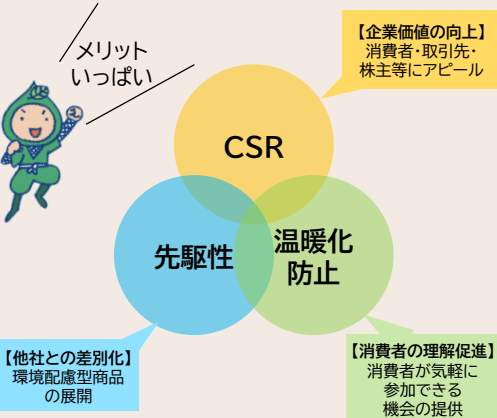
J-クレジット制度は、カーボン・オフセット活用促進制度の一つです。省エネ設備の導入や再生可能エネルギー活用で削減したCO<sub>2</sub>排出量や、適切な森林の管理によるCO<sub>2</sub>の吸収量を、「クレジット」として認証します。認証クレジットは、販売・購入が可能で、温対法や省エネ法に基づく排出量の報告やカーボン・オフセットなど、さまざまな用途に活用できます。

J-クレジットの創出・購入には、CO<sub>2</sub>排出量削減以外にも多くのメリットがあります。環境保護に貢献しているという、消費者など外部へ向けたPR効果と

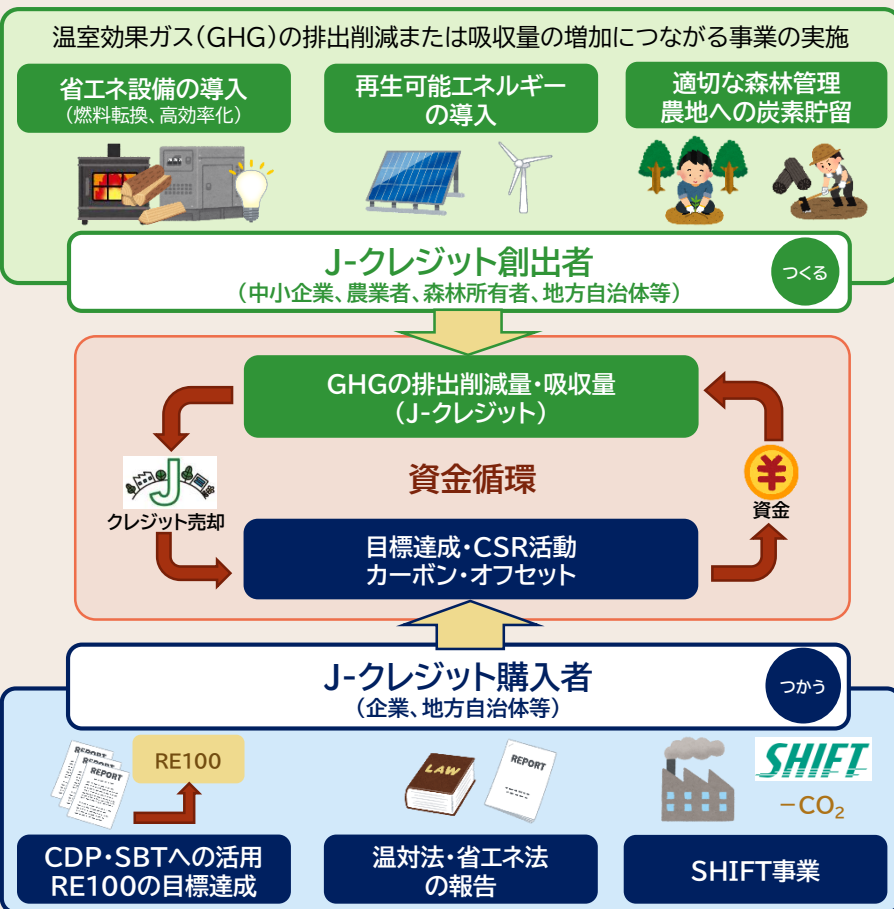
それに伴う企業価値の向上、製品やサービスの差別化、制度に参加することで生まれる新たなネットワークの構築やビジネス機会の獲得は、創出者、購入者双方に見込まれるメリットです。

そのほか、創出者にとっては、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるランニングコストの低減、クレジットの売却により得られる利益、省エネ効果の見える化による組織内の意識改革・社内教育効果なども見込めます。

■ カーボン・オフセットに取り組むメリットの例



■ カーボン・クレジット(J-クレジット)制度の仕組み



関連用語解説

**RE100**  
(Renewable Energy 100%)  
事業活動で消費するエネルギーを100%再生可能エネルギーで調達することを目標とする国際的イニシアチブ

**CDP**  
(Carbon Disclosure Project)  
企業に対してGHGの排出量や、気候変動などに対する取組の情報公開を求め、取組の報告を行う組織、または、その活動を指して使われる言葉

**SBT**  
(Science Based Targets)  
パリ協定が求める水準と整合した企業の温室効果ガス排出削減目標

**SHIFT**  
(Support for High-efficiency Installations for Facilities with Targets)  
工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業



取引市場が形成されるなど、注目が増しているカーボン・クレジット。今後、北海道で取組が加速するクレジットの種類を紹介します。

### ① 森林吸収

取組としては、比較的古くから存在し、森林の光合成による大気中のCO<sub>2</sub>吸収量をカーボン・クレジットとして、販売するというものです。本道は、全国的に見ても、非常に豊富な森林資源を有していることから、道内外の企業や団体からの注目は非常に高く、温室効果ガス排出量の削減に余裕のある自治体の財源の確保などにも活用されるケースは今後も多くなると予想されます。

### ② 農地への炭素貯留

農地に「バイオ炭」をすき込み、長期間にわたり、土壌中の炭素源を吸収するという取組です。

令和2年9月に、「バイオ炭の農地施用に関する方法論」が新たに策定され、農地へバイオ炭を施用し、難分解性の炭素を長期間土壌に固定することによる排出削減量をクレジットとして認証可能となることが定められました。

北海道の主幹産業の一つである農業分野における脱炭素の取組として今後が期待されます。

### ③ ブルーカーボン

ブルーカーボンとは、海藻などの海洋生物が大気中のCO<sub>2</sub>を原料として作り出した炭素化合物が海底に貯留されたものを指します。その吸収能力は非常に高いことが分かっています。

クレジット認証を受けて間もないことから、取引市場の形成が不十分であること、沿岸部のインフラ構築や海洋ゴミの増加などにより、ブルーカーボンの破壊も同時並行で進んでいることなど、将来を見通しにくいといった課題もあります。

道内では、水産業が主幹産業である市町村も多く、そのような地域の産業活性化・脱炭素化に大きく貢献できる可能性があることから特に注目されています。

以降の記事では、これらの注目されるカーボン・クレジットの活用事例について紹介します。



▲ Jクレジットの申請はこちらから！

## 事例

### 森林を活用したクレジット創出

美深町

#### 〈取組の経緯・背景〉

美深町では、平成7年に自動車メーカー・スバルの試験場建設を機に、植樹などの環境活動を同社と共同で行ってきました。平成30年、試験場周辺の約100ヘクタールの森を活用した「スバルの森」活動の一環として、スバルと森林保全に関する協定を締結。町有林を対象とした「美深町森林吸収プロジェクト」を発足し、令和元年にJクレジット制度に登録されました。

#### 〈取組の概要・効果〉

プロジェクトでは、令和元年からの8年間で約12,000トンCO<sub>2</sub>創出を計画。令和4年度は1,958トンCO<sub>2</sub>のクレジットを創出し、スバルをはじめ民間企業に販売しています。クレジット収入は主に森林整備や毎年5月に開催の植樹祭

で活用され、子どもたちの木育活動の場にもなっています。

令和2年には、SGECの森林認証を受けた町産材で地元小中学校の建て替えを行い、全国で初めてCO<sub>2</sub>全体認証（森林管理認証を取得した森林由来製品の適切管理・加工を証明する制度）を受けた公共施設となりました。こうした取り組みも評価され、クレジットの販売先は増加しています。平成27年からは町内の温泉施設のボイラーの燃料を灯油から木質バイオマスへ転換するプロジェクトもスタート。間伐材の活用で、現在では年間で約400トンCO<sub>2</sub>を創出しています。

#### 〈取組の将来展望〉

令和4年の制度改正では、天然生林がクレジット対象に追加され、算定方法の見直しも行われました。それを受けて、今後は天然生林も含めた施行面積の拡大を計画するとともに、間伐材を使った製品づくりも構想中です。

#### 「担当者インタビュー」

美深町役場総務課

企画グループ 小野 主幹

建設水道課

建設林務グループ

小倉 耕地林務係長



#### Q工夫している点

木質バイオマスボイラーで創出したクレジットは、地元の道の駅などに販売。カーボン・オフセットシールを貼るなど、地域で循環させる仕組みを作っています。

#### クレジットの活用事例



